

**昭和三区社会福祉協議会第2次地域福祉活動計画
第4回策定委員会**

日 時 平成21年2月20日(金) 13:30~16:30
場 所 昭和三区在宅サービスセンター 2階研修室
出席者 13名 オブザーバー出席1名

< 報告事項 >

1 経過報告 [資料1]

前回の12/17以降の経過について報告。

作業部会や専門職部会からの提案や策定委員会での議論を受けて事業シートや重点項目に整理し、あわせて社協組織や進行管理について検討してきた。

事務局で整理した案について、推進協会長やワーキンググループ、専門職部会にフィードバックし、再度意見を聞いた。

< 協議事項 >

1 計画冊子の全体像 [資料2]

1~3章の支援システムまでは前回の策定委員会で審議していただいたものを整理した。

6章に学区福祉活動計画をのせる予定だったが、学区ごとの計画は審議の対象とはしないので、資料編にのせることになった。

策定体制なども資料編に移動した。

配布対象を意識して作る

- ・計画冊子は、計画の策定や推進に関わる区民・専門職・職員が使うことを想定。その意味で具体的な事業シートのない計画は絵に描いたモチになってしまう。
- ・一般区民に計画冊子を渡しても学問的な整理だけではまず読まれない。対象を分けて作ってはどうか
 - 一般区民には概要版を作成し、配布することを予定している。

区民に広く周知するための内容・表記・手段が必要

- ・シートNo. は分かりにくい。ページ数を表示しては。
- ・あまり関心のない区民の目にもふれるためには、たとえば広報紙『こころんねっと』に概要版を号外として載せるといった工夫もできるのでは。

< 審議事項 >

1 重点項目・実施計画について(第3・4章)

本計画でめざすこと

- ・長々と1次計画との比較を書かずに、2次計画のことだけを書いてはどうか。
- ・大事なところではある。福祉=サービスの提供と受け取られがちなので、住民の支えあい活動も大事だということは伝えなければいけない。

重点項目1 双方向の支えあいのネットワークづくり

- ・関係図の推進協の構成団体の中に女性会が入っていない。
- ・老人クラブは高年クラブと呼ぶところもある。
昭和区の実情に合わせて訂正する

重点項目2 身近な地域でつながるための場づくり

- ・プロジェクトチームと立ち上がったたまり場と推進協との関係は？
学区の中でたまり場を開催していくには推進協のバックアップが不可欠。常に推進協とつなげていくよう意識したい。
- ・プロジェクトチームは社協内に常駐するイメージか。
常駐ではなく、必要に応じて機会ごとに集まる。たまり場プロジェクトチームはすでに立ち上がった。
- ・交流会はどんな形を考えているか
たまり場世話人として活動している人の意見を聞きながらプロジェクトチームで考えていきたい。
- ・場所さえ確保できればたまり場はできる。今やっているたまり場はどこからの助成金もなく、参加者はお弁当代の実費を払って昼食を食べる。支えられるだけではなく、みんなで力を出してやっている。
- ・人間関係が希薄になってきている中で、住民同士のつながりをどう作るかは大切なこと。

重点項目3 地域の中での支えあいの風土づくり

- ・学区の中でもやっていきたいと考えているが、子ども会経由だと子ども会に入っている子どもだけが対象となる。もっと広く対象とし、授業以外に参加できるものをもっと学校やPTAの理解が必要。なにか策はないか。
- ・教育委員会やPTAを通すことは必要ではあるが手順が複雑で時間がかかる。そうしたことをしながらも、実際にとりくんでいくことも必要だ。
- ・授業以外の地域の行事に対して、学校から子どもへ参加しなさいと言うことはできないらしい。本当は学校から一言あると、子ども会に入っていない子どもにも伝わりやすい。先生自身も子どもが地域に出ることを喜んでくれる。
福祉教育に関するネットワークに学校もしっかり入っていただき、学校やPTAにも理解してもらうことも必要。
- ・障がいのある人が一方的に支えられるだけではなく、当事者も一緒に考え、力を発揮できるようにしてほしい。
発想としては同じなので、重点ポイントの表記を工夫する

重点項目4 福祉推進協議会の活性化

- ・「活性化」というと、今は活性化していないように聞こえる。よりポジティブな表現に。「充実・発展」に。
- ・モデル事業をやっていこうとすると、今の推進協の実態にはすぐには合わず、今までの推進協のイメージとは変わってくる。推進協の理念や進め方に関する指針のようなものをまとめては。
パンフレットとしてまとめることを事項に入れる。

重点項目6 総合支援型社協

- ・従来のしくみは申請主義で、自分で声をあげないと助けてもらえない。自分が困っているということを発信できないでいる人をどうみつけていくかが課題。
- ・災害時の助け合いを考えた時には、新聞販売店やケアマネジャーなどの既存ネットワークとの情報を強化し、SOSを寄せられない人をみつけようという案が出ている。
- ・民生委員が敬老パスを配っていた時は家の状態を把握できたが、今ではなかなかできないのでは？
- ・今でも民生委員は一人暮らし高齢者などの世帯をまわっている。民生を頼りにしている人も多い。
近隣での支えあいからのSOSを受け身で待つのではなく、とびこんで積極的にニーズを拾うということが分かるような表記を。

2 社協組織と進行管理について（第5章）

[資料3]

財源見直しについて

- ・3年もかけないといけないか。
- ・見直し中の3年間は助成金はないという意味か。
財源は限られている。見直しと言っても関係団体への根回しなども必要でその期間に3年間が必要。
それまでは現行のものは予算の範囲内で組んでいくということになる。

進行管理について

- ・メンバーが変わっていても続けられるようなしくみは必要。
- ・進行には区役所も積極的に関わっていきたい。

3 今後の進め方について

計画素案の提示と意見集約（パブリックコメント）2/21～3/5 まで
2/27（金） 公開パブリックコメント（兼地域福祉推進研修会）
3/9（月） 9:30～11:30 第5回策定委員会 計画最終案の決定
3/23 理事会 3/25 評議員会 計画の決定